

第1回 福山市学校教育環境検討委員会 概要

【日時】 2025年（令和7年）3月24日（月） 17:30～19:35

【場所】 市役所本庁舎3階 中会議室

【出席】 委員19人（全員出席）

◎委員長、○副委員長

◎伊澤 幸洋	福山市立大学教育学部教授	橋本 秀基	福山市公立小学校長会会長
森 美智代	福山市立大学教育学部教授	新谷 陽子	福山市公立中学校長会
○佐々木 伸子	福山大学工学部建築学科准教授	土利川 佳保	福山市保育施設保護者会連合会会長
山岡 英樹	福山市自治会連合会副会長	小鼓 悠	福山市私立幼稚園PTA連合会
久保 辰己	福山市自治会連合会常任理事	菅田 雅夫	福山商工会議所副会頭
高杉 清志	福山市連合民生・児童委員協議会副会長	金山 節津	市民公募
佐藤 正	福山市交流館長会幹事	亀山 マリエ	市民公募
野田 寿雄	福山市PTA連合会会長	佐藤 有香	市民公募
三木 智恵	福山市PTA連合会幹事	花谷 忠厚	市民公募
阿部 勉	福山市PTA連合会常任理事		

【概要】

- 1 教育長あいさつ
- 2 福山市学校教育環境検討委員会委員の委嘱・紹介
- 3 事務局紹介
- 4 委員長・副委員長互選
- 5 諮問：福山市がめざす学びを実現する学校教育環境の在り方について
- 6 審議スケジュール
- 7 協議内容：福山市立小・中・義務教育学校の現状と課題について

(1) 児童生徒数の現状と将来推計	(6) 特別な支援が必要な児童生徒の状況
(2) 学校規模の現状と将来推計	(7) 教師の現状
(3) 福山市立小・中・義務教育学校の位置図	(8) コミュニティ・スクール
(4) 学校施設	(9) 義務教育学校
(5) これまでの学校再編の取組	(10) 福山市のめざす教育
- 8 その他

委員から出された主な意見

(1) 児童生徒数の現状と将来推計

資料 10 ページ

- ・福山市立の学校だけでなく、国・私立の学校の児童生徒数の実績について、情報がほしい。
- ・少子化の進行を抑えるためには、市の子育て支援施策の充実や福山市の魅力向上も必要である。

(4) 学校施設

資料 14 ページ

- ・全国の自治体が同じ課題を抱えている。これまでは安全面を最優先し、耐震補強工事や改築工事に注力し、耐震化を完了したところである。今後は、これからの教室の在り方について考える段階にきている。今ある校舎をどう改修していくか、こどもたちの活動状況や特性、居心地等を考慮した環境づくりが必要である。

- ・これまではどこの自治体も、学校は同じような建物・配置だったが、今後の老朽化に伴う学校施設の改修や建替えは、各自治体の知恵が試される。
- ・現状の教室や職員室は非常に狭く感じるため、今後の施設整備においては、もう少し教室面積を広くとった設計とすることが望ましい。
- ・建築経過年数が40年を超える建物が約8割を占めており、施設整備の優先度の考え方の整理も必要である。
- ・基幹緊急避難場所に指定されている体育館に空調設備の整備をすると聞いている。体育館や特別教室等の空調設備については、こどもたちの教育に支障が出ないことを第一に考えて、検討することが望ましい。

(5) これまでの学校再編の取組

資料 21 ページ

- ・前任の再編対象校では、変化の激しい社会をたくましく生きていく力をつけていくための授業づくりこそが再編の取組という思いからスタートした。こどもたちや保護者、地域の方々の心理的不安の軽減を第一に考え、開校前の事前交流（授業交流、合同授業参観日、合同野外活動等）に注力した。また、こどもたちは、クラスの人数が増え、より多様な意見を聞くことができるようになり、自分の意見にも友だちから多くの反応を示してもらうことで、だんだんと自信をつけていった。また保護者は、様々な場面でこどもの選択肢が増えたことを実感し、その過程を通して成長を感じることも多かった。
- ・再編により地域から学校がなくなることへの抵抗感は、非常に強いと想像できるが、現状を考えると再編はいたしかたないとも思う。案外こどもたちの方が早く順応し、大人の方に抵抗感が強く残るのではないかと思う。
- ・実際、学校再編で複数の地域が一緒になったことにより、地域同士のつながりができている。
- ・常石ともに学園は異年齢グループで学んでいることなどから、想青学園（後期課程）に進学したとき違和感はないのかという質問を受けることはあるが、異なる学びが一緒になることでの相乗効果が期待できる。こどもたちはうまく適応していくので、大人の方が慣れないといけないと感じる。
- ・常金丸小学校・交流館・放課後児童クラブの複合化は、学校施設に限らず他の公共施設も同様に老朽化による大規模な改修や建替えが集中する状況があることから、今後を踏まえたとても良い取組だと思う。
- ・関係施設が同じ敷地内にあることで、情報交換も頻繁にできる。
- ・小学生の間は、たくさんの人と関わる経験が大切だと思う。中学生になると、さらに社会との関わりを深め、将来の職業を見据えた経験が必要である。こどもに必要な環境を、ストーリー立てて考えるのも良いのではないかと思う。

(6) 特別な支援が必要な児童生徒の状況

資料 27 ページ

■特別支援教育

- ・特別支援教室は、音や光、活動時の居心地の良さなど、配慮した空間にする必要がある。

■外国人

- ・1か月程度では生活言語は身につかない。学習言語はもっと期間が必要である。9月に設置予定の日本語初期指導教室では、修了後も在籍校と連携していくとのことであり、支援の充実が図られるよう期待している。

■不登校

- ・不登校児童生徒数はこの数年で急増しているが、第1要件の学校に在籍していた児童生徒が

再編後の学校で不登校になることは少ないと分かると安心するので、情報がほしい。

- ・新しい学校を開校したとき、ちょうどコロナ禍で臨時休校した時期があった。不登校の理由は学校規模に関わらず様々だが、当時、多くの子どもたちが学校生活への不安を抱えていたのは事実であり、どの学校もおいても丁寧に対応した。
- ・想青学園には、教室に併設されているクラスブースや教室以外の居場所が設けられており、教室に入りにくい子どもたちが過ごすことができ、不登校の抑制にもなっていると聞いた。
- ・再編により適正規模になる学校と常石ともに学園のような学校が、地域ごとに対で存在するようにすれば、在り方として、一つの可能性になるのでは。

(7) 教師の現状

資料 29 ページ

- ・精神疾患を理由に病気休暇を取得している教師の人数について、学校規模によって傾向があるのか、要件別に情報がほしい。

(9) 義務教育学校

資料 31 ページ

- ・国が、高校授業料の無償化について検討している。定員割れなどを理由に多くの私学が中高一貫教育校となっており、中学校から私学へ進学し、公立離れする可能性も高い。義務教育学校を整備するのであれば、そうした動向も注視しながら計画した方が良いと考える。
- ・想青学園の施設は、オリジナルの空間などが全国から注目され、視察も多く受け入れている。福山市の自慢の学校だと思う。そうした空間等の使用状況や効果等を検証し、今後の学校の改修等の際にアレンジして取り入れるといった福山のスタンダードモデルを作ってはどうかと考える。

(11) その他

- ・福山市の魅力ある公立学校を、もっと子育て世代にアピールしたら良いと思う。保護者にとっても、学校の選択肢の幅が広がる。

まとめ

福山市立小・中・義務教育学校の現状と課題を踏まえ、第2回委員会から、3つの諮問事項について審議する。

以上